



鹿児島・全北特別自治道文化交流事業



講師のチェ・ユンファ先生



チョガクボデザインを作る参加者

鹿児島県国際交流協会では、韓国・全北特別自治道（以下「全北」）の全北国際協力振興院の協力を得て、令和2年度から隔年で、交互にお互いの地の文化・歴史や自然を学ぶ講座を開催しています。

今年度は、全北から二人の講師をお招きし、令和6年8月3日（土）に、カクイックス交流センターで全北の

紹介や韓国の伝統紙である「韓紙（はんじ）」を使ったチョガクボ（韓国伝統のパッチワーク）デザインのランタンづくりや宝石箱づくりの体験講座を開催しました。

午前と午後の2部に分けた講座では、128年ぶりに全羅北道から全北特別自治道と名称変更になったことや、全北について紹介していただき、また、韓紙について学び、チョガクボデザインのランタン、または宝石箱づくり体験をしました。子どもから大人まで幅広い年齢層の参加者たちがそれぞれ素敵な作品を作り、参加者から「鹿児島と全北が友好交流をしていると知らなかった。」、「初めて韓紙に触れ、とても新鮮だった。」、「すぐに家で飾りたい。」そして「韓国語で話を聞いて良かった。」といった感想をいただくなど好評でした。

鹿児島県青少年国際協力体験事業



村のみんなと

本事業は、鹿児島県の青少年をアジアの開発途上国に派遣し、ホームステイや学校等での交流を通して相互理解を深めるとともに、現地で途上国の国づくりに貢献している青年海外協力隊の活動現場の視察などを通して、国際協力に対する理解を深め、国際性豊かな人材を育成することを目的に、鹿児島県青年海外協力隊を支援する会、青年海外協力隊鹿児島県OB会、（公財）鹿児島県国際交流協会の三者で実施しております。本年

度で、第31回目を数え、これまで392名の中高生をアジア7カ国に派遣してきました。

本年度は令和6年7月21日から28日までの8日間、県内各地から選抜された16名の中高生を本事業4回目の訪問となるカンボジア王国に派遣しました。

農村部でのホームステイでは、日本とは異なる生活環境や文化・言葉の違いに戸惑いながらも、現地の方々のコミュニケーションを楽しみ、人々の温かさ、心の豊かさに触れることができました。

また、派遣期間中に訪れた小学校で算数の教育指導をする協力隊員の活動現場では、異文化を受け入れ、その国に合った支援の在り方の大切さを学ぶ貴重な機会となりました。「現地で汗を流す協力隊員の言葉が忘れられない。今回の研修が、これからの自分を作り上げる大きな土台となることを確信した。」といった感想も見られ、開発途上国で活躍する協力隊員の姿は、生徒一人ひとりの心に深く刻まれたようでした。

鹿児島で世界を語ろう！第30回外国人による日本語スピーチコンテスト



令和6年度出場者

10カ国30名の県内在住の外国の方が予選に出場し、その中から10名(8カ国)が、令和7年1月25日に鹿児島県歴史・美術センター黎明館で発表しました。最優秀賞は、『着物との出会い』というタイトルでスピーチをしたスリランカ出身で神村学園専修学校のコーディカラ アラチラゲ ディルキ プンヤジャさんが受賞しました。学校の先生の誘いで始めた着物の着付け経験談について、きれいな着物姿でスピーチを披露し、223名の聴衆を惹きつけていました。

今回も鹿児島での生活や経験、自分の思いなどを堂々と日本語で語る出場者の皆さんの姿は、これまで日本で頑張ってきた様子を如実に物語っているようで、聴衆の皆さんも心を掴まれていたようでした。

多文化共生社会促進事業

地域の在留外国人をサポートする人材を育成するため、県内の自治会やその他団体などからの依頼に基づき、「やさしい日本語」や海外の文化紹介、多文化共生の取組事例など多文化共生に係る講師を派遣しました。

依頼があれば講師を派遣するとともに、講師派遣に伴う謝金、旅費などを負担しました。

令和6年度実績

○「やさしい日本語」講師派遣：3か所

やさしい日本語を学び、在住外国人とのコミュニケーションの向上を図った。

○海外文化紹介講師派遣：5か所

ベトナム、インドネシア、アメリカ国籍の講師を派遣し、文化を学ぶことで、在住外国人との相互理解を図った。

○多文化共生アドバイザー派遣：2か所

多文化共生や日本語教育等の課題及び今後の事業展開などについての助言・支援等を行う講師を派遣し、多文化共生社会の推進を図った。



インドネシアについて紹介する様子

外国人住民からの相談対応研修



講師の勝谷先生



講師の福山先生

日常業務において外国人住民からの相談に対応している担当者のスキル向上を図るため、令和6年12月12日にカクイックス交流センター大研修室で「外国人住民からの相談対応研修」を開催しました。

研修会では、外国人住民からの相談の特徴と支援のポイントや行政窓口などでの

相談の聞き取り方及び情報の伝え方のコツなど、外国人住民との効率的な相談対応などを学びました。

講師は、自治体国際化協会から地域国際化推進アドバイザーの勝谷知美氏（熊本市国際交流振興事業団事務局長）を派遣していただき、相談対応に当たり留意すべき事項などについて講義をしていただくとともに、鹿児島県行政書士会の福山和昭行政書士から入管手続などの事例を紹介していただきました。

参加者からは、「普段何気なく使用している日本語を外国人に対して説明する際に、具体的かつ簡潔に説明する重要性について学ぶことができた。」「コミュニケーションスキルや相談対応に当たり留意すべき事項はとても参考になった。」「外国人相談に対応する相談員として、改めて各国や相談者に目を向けて理解しようとするのが重要だと思いました。」といった感想がありました。

災害時外国人支援ボランティア養成講座



「避難所通訳訓練」の様子（対面版）

鹿児島県で大規模災害が起きた場合、災害経験のない外国人の方は、日本語がわからず必要な情報を的確に把握することが困難になることが予想されることから、令和6年7月に、外国人を支援するボランティア養成を目的とした講座を、対面版とオンライン版で開催いたしました。

両講座とも、2011年の東日本大震災の際に「仙台市災害多言語支援センター」の運営に尽力された（一社）多文化社会専門職機構の菊地哲佳氏を講師に迎え、災害時における外国人被災者の現

状や課題、「やさしい日本語」のワークのほか、対面版では、実際に災害時の避難所を想定し、外国人への聞き取りを行う通訳・翻訳演習（英語・やさしい日本語）を、オンライン版では、避難所での文化や言語の違いで起こる問題をテーマとした「多文化防災ワークショップ」を行いました。

参加者からは「講師の先生から、これまでのご経験とそれを踏まえた数々の提案をシェアしていただき、とても有意義だった。」「災害時は臨機応変な対応が強く求められることを実感した。」「災害時の外国人への支援のためには、緊急時だけでなく平時から積極的に関わることが大切だと気づかされた。」などの感想があり、災害が発生したらどのような状況が起こるのか、どのような対応が求められるのかなどを理解できたことで、当事者意識をもって活動に取り組む様子が窺えました。



やさしいにほんご演習の様子（オンライン版）

災害時に助け合えるまちづくり事業



ハザードマップで避難経路を確認する様子

令和6年12月に、出水市との共催で地域在住の日本人及び外国人を対象とした『災害時に助け合えるまちづくり事業』として防災講座及びワークショップを開催し、日本人17名、外国人13名の参加がありました。

講座では、日本人向けに外国人へのやさしい日本語講座を、在住外国人向けに鹿児島の災害や防災対策について学ぶ基礎講座を実施しました。また外国人と日本人合同のワークショップ講座では、防災マップづくりやハザードマップを見ながらの居住地の危険箇所や避難場所・避難経路の確認、そして、救急救命講習としてAEDの使い方につ

いて学びました。

参加者からは、「やさしい日本語は方法論ではなく、相手に対する思いやりが重要だと気づかされた。」「一人ひとりが安心して暮らせるまちをつくるために、まずは身近な人達との交流を大切にしたいと思った。」などの感想がありました。

今回の事業が、平時からの顔の見える関係づくりのきっかけとなり、災害時において日本人と外国人がお互いに助け合えることを願っております。



「救急救命講習（AEDの使い方）」の様子

在住外国人のための日本語・日本理解講座



スキットの様子

鹿児島で生活する外国人が、生活に役立つ日本語や日本人の習慣などについて学ぶ「在住外国人のための日本語・日本理解講座」を令和6年5月から令和7年2月まで全60回（水曜昼間クラス30回，木曜夜間クラス30回）開催するとともに，8月には鹿児島県の委託事業としてオンラインによる日本語講座も実施しました。

対面の講座では，少人数に分かれて，普段の生活に役立つ表現を学んだり，学んだ言葉を使ってスキットをしたりしました。また，教室の近くにある小学校で児童と交流をするなど様々な側面から日本語を学びました。オンラインの講座では仕事や家庭の都合で対面の教室に参加できない方や，近くに日本語教室のない方が参加をしてくださり対面の講座とは一味違った講座になりました。

受講生からは，「実用的で生徒に関連のあるトピックを選んでくれたので便利な表現を学ぶことができた。」，「もっと勉強して日本語を話せるようになりたい。」などの意見をいただき，日本語学習に意欲的に取り組んでいる様子が伝わってきました。

日本語教育人材養成講座

在住外国人が生活に必要な日本語能力を身につけることを支援する人材を養成することを目的に，令和6年9月から12月まで，オンラインで日本語ボランティア入門講座を3回，スキルアップ講座を6回，そして日本語教師スキルアップ講座を2回行いました。

講座には計16名の方が参加しました。ボランティア入門講座では，県内に住む在住外国人のことや，多文化共生について，スキルアップ講座では日本語支援におけるポイント，やさしいにほんごについて学び，実際に鹿児島県内に在住の日本語学習者を招いて，やさしいにほんごでの会話に挑戦しました。また，教師スキルアップ講座では，現在日本語支援に携わっている方々が，支援をしていく中での成功体験や失敗体験を共有しました。

参加者からは「やさしいにほんごを使って会話をするのは想像以上に難しかった。今回の経験を活かして普段からどのような表現をすれば学習者が理解しやすくなるかを考えて過ごしたい。」「日本語を外国語として学んでみると想像より難しかった。外国人の立場に立って考えて教えたい。」などの感想が寄せられました。

今後，受講してくださった方々には鹿児島で生活する在住外国人への日本語支援に，関わっていただきたいと思っています。

日本語サロンおしゃべりひろば



冠婚葬祭について説明する様子

日本語の日常会話が可能な外国人を対象に，ネットワークづくりや日本語の上達を目的とした『日本語サロンおしゃべりひろば』を全4回開催いたしました。

今年度は『冠婚葬祭～日本のしきたり～』，『自転車の交通安全』，『お月見会』，『スポーツで国際交流！ウォーキングサッカー大会』をテーマとして実施し，日本人参加者やゲストを招きテーマについてディスカッションをしたり，自国の文化と比較したりしながら色々な国の参加者が意見交換をしました。日本のしきたりを紹介する『冠婚葬祭～日本のしきたり～』では，講師にサンブリッジの皆さんを招き，参加者が日本の冠婚葬祭について学びました。お葬式の際にする焼香の体験をし，自国のお葬式の方法と比較し驚いている参加者もいました。

参加者からは，「色々な人と交流ができて視野が広がった。」「日本文化を深く知るいい機会になりました。」という声が寄せられました。このおしゃべりひろばをきっかけに，今後，参加者同士の輪が広がり，日本語学習の意欲に繋がっていくことを期待します。

ベトナム語入門講座



県内に在住する外国人の中で最も多いベトナムの文化や生活習慣への理解を深め、ベトナム人との友好関係を築くことを目的に、今年度初めて、ベトナム人講師によるベトナム語入門講座を開催しました。

今年度のベトナム語入門講座は、前期と後期に分けて、全16回カクイックス交流センターで実施し、延べ201名が参加しました。本講座の受講者は年齢層が幅広く、大人だけでなく、小学1年生や5年生も受講しました。講座では、まずベトナム語のつづり方を学ぶことから始まり、各回のテーマに沿った単語や簡単な表現を教えました。その後、講師や他の受講生との会話練習を行い、最後に「知っている？」というコーナーで、講師がベトナムの生活や文化、観光について紹介しました。

前期と後期の最終回には、それぞれベトナム語の発表会を行いました。前期では自由なテーマ、後期では「私の一番幸せな日」をテーマに発表してもらいました。また、11月30日には特別企画として「ベトナム語で料理講座」も実施しました。皆さんから「スパルタ式が良かったです。『逃げる人ほど指名しますよ!』という言葉が一番印象に残っています。」や「もっと、もっとベトナム語を学ぶことをがんばりたいし、喋れるようになりたい。」という声が寄せられました。

ワールドトークサロン夏季特別企画「韓国と中国人生のイベントどう違うの?」



ワールドトークサロンの講師を務める韓国出身の県国際交流員キム ジュヒさんと中国出身の県国際交流員 トウ レイカさんのお二人を、プレゼンターとしてイベントに招き、休憩を含む2時間半の文化理解・交流トークイベントを開催しました。

主なテーマを、若い世代にとって人生のイベントともなる『学校』・『結婚』・『出産』・『各国あるある』の4つに分け、交流員自身が実際に見聞したり、経験したりしてきた学校生活やそのシステム、結婚の儀式、出産サポート体制などを、映像を交えながらそれぞれの母国語で紹介してくれました。テーマ毎に設けたフリーストークタイムでは、参加者自身が得意とする韓国語・中国語やボディランゲージなどを駆使し、熱心にパネラーに質問していました。

異なる語学を学ぶ参加者たちは、互いが初めて知る文化や習慣などの違いについて驚き、学びを共有することができて、とても有意義なイベントとなりました。

協力隊 OB と留学生が先生事業



鹿児島県青年海外協力隊を支援する会、青年海外協力隊鹿児島県 OB 会と当協会の3団体で実施しているこの事業は、年間約40校の小・中学校に青年海外協力隊として活動していた帰国隊員や県内に在住する留学生などの外国人を講師として派遣しています。またこの事業は、協力隊 OB による海外での活動体験の話や外国人との交流により、国際協力・国際理解を学ぶことを目的にしています。

今年度も、写真や動画を使って体験や国を紹介したり、実際に民族衣装を着てみると、教科書だけでは知り得ない事柄を紹介しました。

今年度実施した40校の約2200名の児童・生徒からは「他の国についてもっと知りたくなった。」「知らないことが沢山あった。」「大人になったら協力隊として海外で活躍したい。」などの感想をいただきました。

この事業が、国際理解教育としてだけでなく、児童・生徒が自分の将来について考える良い機会となっているようです。



『信頼で世界をつなぐ』

JICA（国際協力機構/ジャイカ(注)）は、日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行う機関です。(注)JICA は、Japan International Cooperation Agency の略称です。開発途上国のニーズや、課題の解決に向けて、無償資金協力、有償資金協力、技術協力の手法を組み合わせ、様々な取組を行っています。

■ JICA 海外協力隊

JICA 海外協力隊とは、開発途上国からの要請に基づき派遣され、現地の人々と共に途上国の課題解決に取り組むことを目的としたボランティア事業です。

これまでに本県ゆかりの隊員約 1,000 名が派遣されており、派遣中のみならず、帰国後も各分野での活躍が期待されています。JICA 海外協力隊は、20 歳から 69 歳の方ならどなたでもご応募頂けます。ご自身の知識と経験を途上国の課題解決に役立ててみませんか？

詳細は、HP もしくは、JICA デスク鹿児島まで、お問合せください。



いつか世界を変える力になる。
JICA 海外協力隊

鹿児島県国際交流協会には JICA 事業の窓口として「JICA デスク鹿児島」があります。

<JICA デスク鹿児島> TEL：099-221-6624 E-mail：jicadpd-desk-kagoshimaken@jica.go.jp

国際交流プラザのお知らせ



- ・ イベント情報等の掲示板
- ・ 国旗、民族衣装、地図、ユニセフビデオの貸し出し
- ・ 外国語新聞、図書、雑誌などの閲覧
- ・ ワールドトークサロン（英語・韓国語・中国語）

○国際交流に関するご質問や、ホストファミリー・語学ボランティアの登録については、随時受け付けております。お気軽にお立ち寄りください。

外国人総合相談窓口

外国人総合相談窓口では、県内にお住まいの外国人の方々からの各種相談に応じています。

○相談方法：面接、電話、メール、Facebook メッセージ

TEL：070-7662-4541 Email：kiasoudan@gmail.com

○相談窓口 Facebook：https://www.facebook.com/Kiasooudan

○対応言語：24 言語 日本語、英語、ベトナム語は相談窓口で対応します。

その他の言語は、多言語コールセンターを活用します。



⇐相談窓口 FacebookQR コード



相談イメージ図

【国際交流プラザ、相談窓口、本誌に関する問い合わせ先】公益財団法人 鹿児島県国際交流協会

〒892-0816 鹿児島市山下町 1 4 番 5 0 号 カウイクス交流センター 1 階

TEL: 099-221-6620 / FAX: 099-221-6643 E-mail: kia@kiaweb.or.jp

HP: https://www.kiaweb.or.jp Facebook: https://www.facebook.com/Kagoshima.Intl.Assoc/

《開館時間》9:00～17:00（火曜日～日曜日）《休館日》月曜日（但し祝日の場合はその翌日）/年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）

